

2018年  
謹賀新年



広野町長  
遠藤 智

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。年頭に当たり町民の皆様には、今年一年のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、平素から町政全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、広野駅東側と西側を結ぶこ線人道橋「未来のかけ橋」や県道広野・小高線に接続する町道下浅見川線、町道高萩・田中線が全線開通し、復興の拠点としての環境整備が整いつつあるなか、ふる里復興・再生に向けて継続実施している「童謡のまちづくり」が、避難生活を余儀なくされた町民の皆様への想いを醸成したことにより、日本童謡協会から童謡文化賞を受賞しました。童謡「とんぼのめがね」が生まれ、唱歌「汽車」の

# ふる里復興・創生「邁進の年」

舞台であることから、童謡文化の継承に努めてきたことが評価されたもので、広野町が受賞したことは、町の歴史に大きな喜びと誇りを刻みました。また、町民同士の絆の再生や交流人口の拡大を図るため、町の4大イベント(サマーフェスティバル、童謡まつり、秋まつり、ふれあいマラソン)のほか、震災後初となる集団対抗パークゴルフ大会を開催しました。更に、教育環境、子育て環境を充実させ、将来を担う子どもたちをしっかりと育成するため、早稲田大学、東日本国際大学、福島工業高等専門学校等の3つの高等教育機関の研究拠点を誘致しました。研究拠点を中心としてふたば未来学園、広野小・中学校、地域の皆様と連携を図りながら、復興・再生から創生へと向かう事業を創出していきたいと思っております。11月には、平成31年4月の開校を目指し「ふたば未来学園中学校・高等学校」の新校舎の起工式が行われ、本格的な整備に着手するなど、未来へつながる事業がスタートした一年でありました。

私は、これまで取り組んできた町の復興・再生を、新しい広野町の「創生」へと進化させ、ふるさとの歴史・伝統・文化を継承しながら新しいまちづくりを進め、「いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町」を標榜し、本年を「ふる里復興・創生「邁進の年」と位置付け、「日本一元気な町づくり」を目標に掲げて着実に力強く前進していきたいと思っております。

8割を超える皆様が帰町した中で、これまでの避難生活により心身の健康を崩された方や被災により生活に要する経済的負担に不安を抱えている方が見受けられると共に、約1千名の町民の皆様が町外で生活している厳しい現状にあります。長期間にわたる避難から生活を落ち着かせるためには一定の期間が必要であることから、医療や介護の一部負担金や保険料・保険料の免除措置や、高速道路の無料化措置を引き続き継続するよう国に対して強く訴えていきます。町民の皆様が生活再建を果たすためには、経済的な自立と生活の安定が重要であり、プレミアム付商品券の発行を32年度まで継続して取り組み、町民の皆様の経済的負担を軽減させ、生活再建を下支えしてまいります。

平成30年1月1日  
広野町長 遠藤 智

## 復興・創生に向け第二期町政がスタート

# 広野町長選挙 遠藤智氏が再選



任期満了に伴う広野町長選挙が11月19日に行われ、現職の遠藤智氏が二期目の当選を果たしました。

12月11日に初登壇し、大勢の支援者や役場職員から盛大な拍手で出迎えられた遠藤町長は笑顔で応え、贈られた花束を手に二期目の町政の第一歩を踏み出しました。その後、職員を前に初訓示を行い「一期4年間は、職員の皆様と共に避難を余儀なくされた町民のふるさとでの生活を取り戻すためのまちづくりを全力で取り組み、帰還への歩みを進めてきました。

二期目を進めるにあたって、町民の皆さまの声をしっかりと受け止め、公明正大に町政運営を行い、町民主体のまちづくりに邁進していきます。そして、これまで取り組んできた町の復興・再生を新しい広野町の「創生」へと進化させ、ふるさとの歴史・伝統・文化を継承しながら新しいまちづくりを進め、「日本一元気なまちづくり」を目標に掲げて着実に力強く前進させます。復興に向け全国からのご厚情に応えるため



12月6日、吉野正芳復興大臣(写真中央)と浜田復興副大臣(写真右)に要望書を提出

には、志や夢がなければ成功も実現もなく、復興・創生は成り得ません。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし」です。二期目の職務に全力で取り組み、継往開来、ふるさとの歴史・伝統・文化を守りながら、5千人の町民が心一つに愛情豊かな町、町民の皆様が誇りと思える『ふるさと広野町』を創りに、次の世代に託していきます。共に頑張りましょう。」と述べ、復興・創生への意欲を新たにしました。遠藤町長の任期は、12月9日から4年間となります。